

道徳指導法振り返り

指導案の書き方



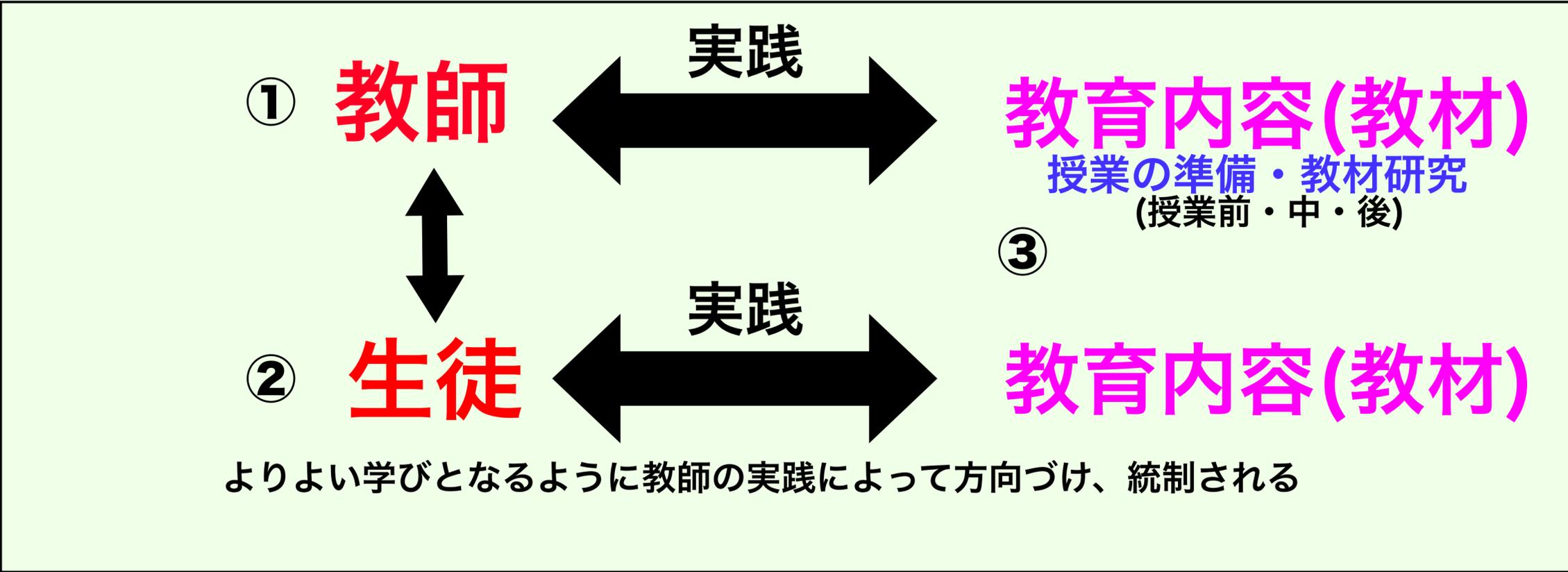
教材研究(教材についての教師が考えを深める)

<https://ouaharoprof.xsrv.jp/info5>

授業の構造



||



留意事項

教材研究に時間を取る(教材の分析)

- ・まず、自分なりに教材を読み込む(気づきを書き込む)。⇔たくさんの気づきをもつ。
- ・教材をとおして、生徒がどんなことに気づき、どんなことを考えるのかを多様に想定する。
- ・中心になる場面はどこか。→生徒に考えてほしい道徳的な価値は何か(ねらい)。
- ・中心になる場面でどんな発問をするのか。



指導案に落とし込む



作成にあたってのヒントはどこにあるか？

中学校道徳教科書

<http://www.textbook.or.jp/textbook/publishing/junior-doutoku.html>

東京書籍

<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/chu/list/keikaku.html>

指導計画作成資料(ねらい・学習活動・主な発問・評価の視点)

教育出版

<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/r3chuu/doutoku/download/index.html#05>

指導計画作成資料

光村図書出版

<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/c-doutoku/keikaku>

指導計画・評価計画資料

あかつき教育図書

<https://www.aktk.co.jp/r3-doutoku>

指導計画作成資料
年間指導計画案

日本教科書

<https://www.nihon-kyokasho.co.jp/guidance/>

学習活動の重点化等に資する年間指導計画参考資料

日本文教出版

<https://www.nichibun-g.co.jp/textbooks/c-doutoku/>

年間指導計画案

文部科学大臣が教科書として適切か否かを審査し、これに合格したものを教科書として使用することを認めることを**教科書検定**という。

学校には『指導書』

教材について

(教科書会社のホームページ)

令和6年1月現在

- ▶ 北海道 (22地区)
- ▶ 青森県 (8地区)
- ▶ 岩手県 (8地区)
- ▶ 宮城県 (6地区)
- ▶ 秋田県 (9地区)
- ▶ 山形県 (9地区)
- ▶ 福島県 (11地区)
- ▶ 茨城県 (12地区)
- ▶ 栃木県 (13地区)
- ▶ 群馬県 (9地区)
- ▶ 埼玉県 (25地区)
- ▶ 千葉県 (15地区)
- ▶ 東京都 (54地区)
- ▶ 神奈川県 (25地区)
- ▶ 新潟県 (12地区)
- ▶ 富山県 (7地区)
- ▶ 石川県 (10地区)
- ▶ 福井県 (5地区)
- ▶ 山梨県 (6地区)
- ▶ 長野県 (12地区)

- ▶ 岐阜県 (7地区)
- ▶ 静岡県 (11地区)
- ▶ 愛知県 (8地区)
- ▶ 三重県 (10地区)
- ▶ 滋賀県 (6地区)
- ▶ 京都府 (6地区)
- ▶ 大阪府 (41地区)
- ▶ 兵庫県 (20地区)
- ▶ 奈良県 (18地区)
- ▶ 和歌山県 (8地区)
- ▶ 鳥取県 (3地区)
- ▶ 島根県 (5地区)
- ▶ 岡山県 (7地区)
- ▶ 広島県 (19地区)
- ▶ 山口県 (15地区)
- ▶ 徳島県 (11地区)
- ▶ 香川県 (8地区)
- ▶ 愛媛県 (16地区)
- ▶ 高知県 (8地区)
- ▶ 福岡県 (16地区)

- ▶ 佐賀県 (4地区)
- ▶ 長崎県 (12地区)
- ▶ 熊本県 (11地区)
- ▶ 大分県 (12地区)
- ▶ 宮崎県 (6地区)
- ▶ 鹿児島県 (9地区)
- ▶ 沖縄県 (7地区)

教科書採択

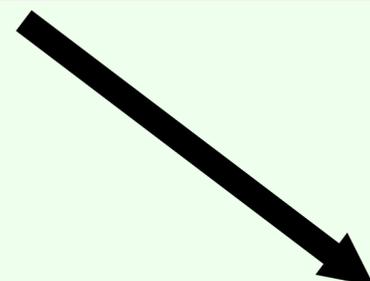
文部科学省で採択された教科書を
「採択地域」で採択する。

**47都道府県のそれぞれの採択地区
どの会社の教科書を使っているのか知っておく**

文部科学省 道徳教育アーカイブ

<https://doutoku.mext.go.jp/>

教材は教科書だけではなくありません。



文部科学省作成教材

• 私たちの道徳 中学校

• 心のノート 中学校 (PDF:32,307KB)

https://doutoku.mext.go.jp/pdf/junior_high_school_moral.pdf

https://doutoku.mext.go.jp/pdf/junior_high_school_note.pdf



• 「私たちの道徳」活用のための指導資料 (中学校)

• 改訂版「心のノート」を生かした道徳教育の展開ー「心のノート」活用事例集ー

https://doutoku.mext.go.jp/pdf/junior_high_school_moraltext.pdf

https://doutoku.mext.go.jp/pdf/note_casestudy.pdf

文部科学省 道徳教育アーカイブ

<https://doutoku.mext.go.jp/>



実践事例について



※授業実践のビデオを見て、逆に指導案に落とし込むことができる。



形態を四人のグループにし、生徒自身の言葉で考え、話し合わせる。

clos

「考え、議論する道徳」
 (主体的・対話的で深い学び)



本当の幸せって何だろう？

幸せって何だろう。

- 「何不自由なく生活できる人は幸せ」と言う人がいる。
- 「昔の方が心が豊かで幸せだった」と言う人もいる。
- 「今の社会は、豊かな生活に慣れすぎて、大切なものを見失っている」と言う人も。
- 「そんなのぜい^{たく}な^な悩みだ」と言う人も。
- 今の私たちは幸せなのだろうか。
- 幸せの条件ってあるのだろうか。

本当の幸せって何だろう？



生徒同士の話し合い
 (ペア・グループ)

中学校 第三学年

【主題】

本当の幸せを考える

【向上心、個性の伸長】

【ねらい】

人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを理解し、生きることの喜びを見いだそうとする意欲と態度を育てる。

【教材】

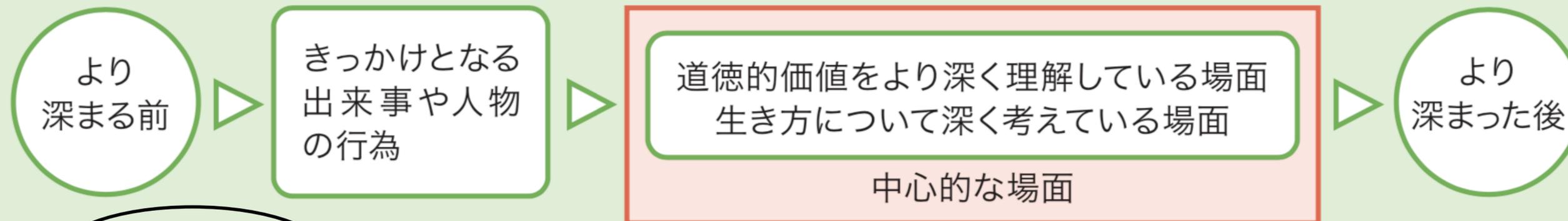
「本当の幸せって何だろう？」

(「私たちの道徳253ページ」文部科学省)

※次『言葉の向こうに』

教材を吟味する

【読み物教材の分析】 ～登場人物の道徳的価値の理解の深まりを見てみると～



補助発問

中心的な発問を生かす発問

中心的な発問

中心的な発問を生かす発問

中心発問

【発問づくり】 ～発問の具体例は～

- 「自分だったらどう考えるだろう」
 - 「自分だったらどうしただろう」
 - 「なぜ～したのだろう」
 - 「こんなとき、どうすればよいのだろう」
 - 「～はどんな気持ちだろう」
 - 「なぜ～は大切なのだろう」
 - 「～のことをどう思う」
 - 「どうして～できたのだろう」
 - 「何が問題になっているのだろう」
- など

教育現場でよく使われている『指導案の書き方』

道徳科学習指導案

平成〇年〇月〇日 第〇校時

〇学年〇学級 生徒(児童)数(人)

指導者 〇〇 〇〇

1 主題名 □□□□□ (例) (内容項目 A-1 自主・自立 自由と責任)

2 ねらい ……を通して, ……しようとする
道徳的実践意欲と態度 (or 道徳的判断力 or 道徳的心情) を養う。

3 教材名 『〇〇〇〇』 (出典 ……)

4 主題設定の理由

○ねらいとする価値について

※「中学校学習指導要領解説 道徳編」に価値項目ごとに説明が記載(左頁)されているので、それを参考にしながら、教師としてその価値をどう捉えているのかを書く。

○生徒の実態について

※ねらいにかかわる生徒の実態、今までの学級活動での指導との関連等について書く。
「中学校学習指導要領解説 道徳編」に価値項目ごとに説明を参考(右頁)に、以下のような言葉を使って書く。

「本学級の生徒は…」(道徳性におけるよさ)、「しかし…」(道徳性における課題)。
「これは…」(児童・生徒の実態の分析と考察)。「そこで、本教材を通して、…について考える機会としたい。」(本授業でねらうこと)

○教材について

※以下のような言葉を使って、教材の概要及び、その教材のよさについて、書く。

「本教材は…」(教材の概要)
「本主題の指導にあたっては…(ねらいに関わる中心的な活動)を通して…について考える機会にしたい。」

5 本時のねらい

※ここは、本授業での「小さなねらい」。教材の中のことば等を用いながら、具体的にこの教材のどこをきっかけに、何を生徒に考えてもらいたいのかを短く端的に明記する。

6 本時の展開

	学習活動・発問と予想される生徒の反応	指導上の留意事項
導入	◎ <u>道徳的価値への動機付け(方向付け)を図る段階の活動</u> 内容・発問を書く。 (ねらいとする価値にかかわるアンケート結果や 日常でのふりかえり)	価値に対する直感
展開	中心発問・補助発問 ※発問、および発問に対して想定される生徒の反応も書く ※ 既成の指導案 を参考にして、自分なりに考えた発問(子どもへの質問)やそれに対する子どもの反応を書く。 ※中心発問とは、本教材で中心となる一番考えてほしいこと 補助発問とは、生徒が考えやすいよう、中心発問の前提となる発問のこと ※全体よりもグループ(生徒同士の協同の取り組み)での交流が中心	※意見をまとめるのではなく、多様な意見を出させることが大切。結論として、同種の意見であっても、その理由には違いがあるので、自分の思いを自分の言葉で語らせたい。 ※座席の工夫、小グループによる話し合い活動(ペア、グループでの交流)によって、多様な思いや考えを交流する。→全体では発表に抵抗がある生徒でも、少人数なら語りやすい。
終末	◎授業を通して自分が考えたこと、友達の意見を聞いて感じたこと・考えたことについて「書く」活動を取り入れる。 ・この授業を介して気づいたことや考えたことを書かせ、それを交流し合うことによって、より多様な考えを知る。 ・主人公に手紙を書く、保護者や地域の方からの手紙を読む、授業中の生徒の発言や好ましい態度等、授業を通して気づいたことを授業者から話すこともある。 ・教師がねらいとする価値にむけてまとめることはしない。すなわち、価値の押し付けになることは避ける。	※これからの自分の生き方や生活にかかわって、課題意識や自分への問いかけを持てるようにする。 ※価値の押し付けにならないようにする。 ※余韻を残して終わることもよい。

中心となる場面について考える

内省を深める

7 評価の観点

(例)

- ・道徳的価値について、自分自身とのかかわりで考えようとしている(教材ごとに具体的に書く)。
- ・自分とは異なった他者の考えをよく聴き、受けとめようとしている。(ワークシート、授業中の生徒同士が関わる様子、生徒の発言等を通して見取る。)

「1 主題名」の書き方 ← キャッチフレーズ

※付け加える：【内容項目A-3向上心・個性の伸長】 p.25

「2 ねらい」の書き方

→・・・を通して・・・**しようとする**()を養う。

自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求
しようとする(道徳的実践意欲と態度)を育む

○ 「特別の教科 道徳」(道徳科)の目標

P.17~18

「よりよく生きるための基盤となる**道徳性**を養う・」

• **道徳的判断力**

それぞれの場面で善悪を**判断する**能力

• **道徳的心情**

道徳的価値の大切さを**感じ取り**、
善を行うことを喜び、悪を憎む感情

• **道徳的実践的意欲と態度**

道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし、**道徳的価値を**
実現しようとする意志の働きと道徳的行為への身構え

道徳性の様相
(すがた・ありさま)

「2ねらい」の書き方

↓・・・しゅんじゅん

（を養う。）

内容項目

小学校第5学年及び第6学年 (22)	中学校 (22)	
A 主として自分自身に関すること		
(1) 自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。	(1) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。	自主、自律、自由と責任
(2) 誠実に、明るい心で生活すること。		
(3) 安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。	(2) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。	節度、節制
(4) 自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。	(3) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、  を伸ばして充実した生き方を追求すること。	向上心、個性の伸長
(5) より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。	(4) より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げる。	希望と勇気、克己と強い意志
(6) 真理を大切にし、物事を探究しようとする心をもつこと。	(5) 真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努める。	真理の探究、創造
B 主として人との関わりに関すること		
(7) 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。	(6) 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深める。	思いやり、感謝
(8) 日々の生活が家族や過去からの多くの人の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。		
(9) 時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。	(7) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。	礼儀
(10) 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。	(8) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達を持ち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていく。	友情、信頼
(11) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。	(9) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの方や考え方がることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていく。	相互理解、寛容
C 主として集団や社会との関わりに関すること		
(12) 法やまじりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。	(10) 法やまじりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努める。	遵法精神、公德心
(13) 誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。	(11) 正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努める。	公正、公平、社会正義
(14) 働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。	(12) 社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努める。	社会参画、公共の精神
	(13) 勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。	勤労
(15) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。	(14) 父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。	家族愛、家庭生活の充実
(16) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合っよりよい学級や学校をつくることと、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。	(15) 教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合っよりよい校風をつくることと、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努める。	よりよい学校生活、集団生活の充実
(17) 我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。	(16) 郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努める。	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
	(17) 優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努める。	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度
(18) 他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。	(18) 世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。	国際理解、国際貢献
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること		
(19) 生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえないものであることを理解し、生命を尊重すること。	(19) 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえない生命を尊重すること。	生命の尊さ
(20) 自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。	(20) 自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努める。	自然愛護
(21) 美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと。	(21) 美しいものや気高いものに感動する心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。	感動、畏敬の念
(22) よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる。	(22) 人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだす。	よりよく生きる喜び

中学校学習指導要領(平成 年告示)解説

特別の教科 道徳編

4 主題設定の理由

○ねらいとする価値について

(左)内容項目概要 (右)指導の要点

○生徒の実態について

3 向上心, 個性の伸長

自己を見つめ, 自己の向上を図るとともに, 個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。

(小学校) [個性の伸長]

[第1学年及び第2学年] 自分の特徴に気付くこと。

[第3学年及び第4学年] 自分の特徴に気付く, 長所を伸ばすこと。

[第5学年及び第6学年] 自分の特徴を知って, 短所を改め長所を伸ばすこと。

(1) 内容項目の概要

「自己を見つめ」とは, 様々な行為をする主体である自己について深く省みることであり, その過程において一貫した自分の姿や将来像を思い描くことにつながる。「汝自身を知れ」「吾日に三たび省みる」という言葉があるように, これまでや現在の自分, そして将来こう在りたいという自分を静かに見つめ直すことは, 自己の向上を願って生きていく上で重要なことである。自己を見つめる中で, 向上心が起こるのである。このとき思い描く自己像は, 自他の行為における関係の中で意識されるものである。基本的には他者と異なるという意味での自己像であり, これから努力して徐々に創り上げていくものである。自己という概念は, 他者との関係において, 初めて規定されるとも言える。

一人一人の人間は姿や形が違いうように, 人それぞれには必ずその人固有のよさがある。「個性」とは, 他者と取り換えることのできない一人一人の人間がもつ独自性であり, それは, その人の一部分ではなく, 人格の総体である。個性は, 能力・適性, 興味・関心, 性格といった様々な特性において捉えられる。個性は, その人固有の持ち味とも呼べるものであり, 「個性を伸ばす」とは, 固有の持ち味をよりよい方向へ伸ばし, より輝かせることである。自分自身で嫌だと思っている所も, 見方を変えて磨きをかけることで, 輝く個性になり得るのである。個性を生かし伸ばしていくことは, 人間の生涯をかけての課題でもある。「充実した生き方」とは, 他者との関わりの中で自分らしさを発揮している生き方であり, 自分自身が納得できる深い喜びを伴った意味ある人生を生きることである。自分の人生への前向きな取組を繰り返す中で, おのずと体得されるものである。

(2) 指導の要点

小学校の段階では, 特に高学年で, 自分が気付いた長所に目を向けそれを維持し伸ばそうとする態度を育てるとともに, 自分の短所をしっかりと見極め, それを課題として改善し, 自分自身を伸ばしていくことについて指導を行っている。

中学校の段階では, 入学して間もない時期には, 他者との比較において自分を捉え, 劣等感に思い悩んだり, 他者と異なることへの不安から個性を伸ばそうとすることに消極的になったりすることもある。学年が上がるにつれて, 自己理解が深まり, 自分なりの在り方や生き方についての関心が高まり, 「人生いかに生きるべきか」といった命題にも真剣に取り組むようになる。このことは「よりよく生きたい」という願いの裏返しであり, 価値ある自己の実現に向けて限らない模索をしていることを表している。そして, 他者と同じように扱われることを嫌うようになり, 自分の姿を自らの基準に照らして考え, その至らなさに一人思い悩むことも少なくない。

指導に当たっては, まず, 短所も自分の特徴の一側面であることを踏まえつつ, かけがえのない自己を肯定的に捉え(自己受容)させるとともに, 自己の優れている面などの発見に努め(自己理解)させることが大切である。自分のよさは自分では分からないことが多いため, 生徒相互の信頼関係を基盤として互いに指摘し合い, 高め合う人間関係をつくっていくように指導することが重要となってくる。

さらに, 自己との対話を深めつつ, 自分自身のよさを伸ばしていくようにすることが大切である。例えば, 優れた古典や先人の生き方との感動的な出会いを広げる中で, 充実した人間としての生き方についての自覚を深め, これまで気付かなかった自分自身のよさや個性を見いだしていくこともある。教師は, 生徒がそれぞれの人生で培ってきた個性を大切に, 生徒のよさの発見に努めなければならない。

目の前の生徒の向上心や個性に関わる状況について、書く。

2 内容項目の指導の観点

第3章 道徳科の内容

留意事項 (まとめ)

①指導案作成は、まずは真似てもよい。

- ・よりよいもの(「**考え、議論する道徳**」＝主体的対話的で深い学び)を求め、自分なりに修正。
- ・参考にできるサイト等(**どこを見れば参考になるものがあるか**)
- ・**グループ、ペア学習形態を多く取り入れる。**

②何より教材研究に時間を取る(教材の分析)。

- ・まず、自分なりに読み込む(書き込む)。⇒たくさんの気づきをもつ。
- ・つぎに、教材をとおして、生徒がどんなことに気づき、どんなことを考えるのかを多様に想定する。
- ・中心になる場面はどこか。→生徒に考えてほしい道徳的価値は何か。
- ・中心になる場面での発問。→「中学校道徳教科書」「文部科学省等の教材」

授業の展開(アクティブラーニング)

課題に気づく

◎教材を読んだ後の生徒の初発の感想

→「気づいたことわからなかったことある？」

・グループで交流、全体で交流

→「〇〇さんが言ったことについてあなたは思う？」

・課題を見つける

→課題となる中心場面にふれる生徒の気づき、思い

自分

主体的・対話的で
深い学び!!

考えを広げる

◎課題についてグループで検討する。

→考えを広げる。

・全体で聴き合いながら、またグループに戻して考えを深める。

→「あなたならどうする?それはなぜ?」自分ごととして捉える。

・価値の押し付けは避ける。一つの考えにまとめる必要はない。

他者

考えを深める

◎自ら考えたことのまとめとして、授業を通して考えたこと等を「書く」を取り入れる。

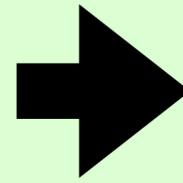
・感想を(無記名)交流する。(教師が読み上げる、

タブレットに入力し交流、転記して後日プリント配布)

自分

道徳教育の「要(かなめ)」

(「補充」「深化」「統合」)



道徳科

「特別の教科 道徳」

道徳科の授業

道徳的な視点からの見つめ直す。

- ・何が問題か、を見つける。
- ・他者と関わる中で
思い・考えを交流する。
- ・それぞれの意見の中にある
判断基準を問い返す。



道徳の授業の役割

自己理解

他者理解

振り返り

感じたこと・思ったこと
考えたことを出せる場

意見

道徳の授業(道徳科)

交流

受けとめ合える場

道

徳

教

育

道徳的価値、価値理解を
教えようとはしない。

「自分のものの見方・感じ方・考え方」を広げ、深める場の提供